

韓国ラーメン物語

一人当たりインスタントラーメン消費量世界1位に輝く韓国。韓国人が年間食べるラーメンは**75.1個**だそうです。換算すると5日に1回はラーメンを食べていることになります。2位のネパール（57個）、3位のベトナム（56個）に比べても圧倒的な数値です。

日本のスーパーでもよく見かけるようになった辛ラーメン、映画「パラサイト」に出て世界でブームになった「チャパグリ」まで。世界へ広がっている韓国ラーメンについて紹介します。

ラーメン愛の始まり

日本「明星食品」の無償技術支援でチキンラーメンの製造方法を習得した韓国企業「三養（サムヤン）」が1960年代に発売したラーメンが韓国ラーメンの始まりと言われています。しかし鶏肉ベースのスープが韓国人の口にはあまり合わず、値段も高かったので発売当時の売れ行きはよくありませんでした。1960年代後半からは販売量が伸び、多くの企業がラーメン業界に参戦しました。あの有名な辛ラーメンの会社「農心（ノンシン）」もその一つです。味を辛くしたり、スープを牛肉ベースに変更して韓国人の好みに合わせるなど、各社の努力でラーメンの需要は段々高くなりました。

一方、韓国政府は1960～70年代に「混粉食奨励運動」に取り組んでいました。韓国戦争後のベビーブームで人口は増えたものの、米の生産量は追いついていない状況でした。政府は土地改善などの政策を取りましたが、即効果は期待できませんでした。そのため、政府は米の消費を減らすために雑穀を混ぜて食べる「混食」と小麦粉で作られた「粉食」を食べるように国民に呼びかけました。ラーメンの需要増加と政府の取り組みが合致し、ラーメン市場は急激に成長します。大量生産による安価販売が実現され、財布にやさしい食事として庶民にも愛用されるようになりました。

各社は昆布付きラーメン、ジャージャー味ラーメン、激辛ラーメン、チーズソースが入ったラーメンなど、様々なニーズに合わせた新商品開発に力を入れています。その結果、**約400種類のラーメン**が市場で販売されています。（※2020年基準・輸出用ラーメンを含む）

▼韓国ラーメン（写真：韓国観光公社）



世界へ広がる韓国ラーメン

2020年10月、ニューヨークタイムズ紙が選定した「The Best instant noodles 11」に1位「辛ラメンプラック」をはじめ、3位・6位・8位に韓国ラーメンが選ばれました。クセになるスープの旨味、もちもちした麺が高く評価されているようです。

韓国関税庁と食品業界の発表によると、2020年のラーメンの輸出総額は**6億362万ドル**で、前年比29.3%増を記録しました。主要販売国は中国、アメリカ、日本、タイ、フィリピンの順でした。

各社は韓国ラーメンの人気を続けていくために商品の開発とともに、海外への流通販路の確保、環境にやさしい袋や容器を開発するなどの努力をしているそうです。これから韓国ラーメンがどのように進化して行くか、楽しみです。

本当？

二日酔いにはラーメンを食べる？

二日酔いで苦しい…ラーメン大好きな韓国人はこういう時もよくラーメンを食べます。調理も簡単ですし、辛いスープを飲んで汗を流すことでスッキリした気分になれるとか。その時によく使われる材料が**大豆もやし**です。大豆もやしにはアルコール成分を分解する**アスパラギン酸**、肝機能を高める**サポニン**があって二日酔いによく効きます。シャキシャキした食感と旨味も欠かせません。鍋に軽く洗った大豆もやしと粉末スープを入れて沸騰させ、麺を入れて待てば完成！宅飲みで思わず飲みすぎてしまった時には是非試してみてください。



作成者 北九州市韓国国際交流員 姜 志守（カン ジス）

姉妹都市である韓国・仁川広域市出身。2017年4月から国際交流員として北九州市で働いています。週末は必ずラーメンと決めています♪一番好きなラーメンは「ジンラーメン（辛味）」です◎